

# 平成26年度 施策評価シート

作成日 平成 26 年 11 月 26 日

## 1 施策の概要

施策名 (節の名称)	No. 15 消防・救急体制の充実				
部章節No.	第2部 第1章 第2節	評価担当部	消防	関連部局	民生部
総合計画書掲載頁	84 頁	記載責任者	沼田直己		
総合計画 体系	まちづくりの目標【部】	安全で安心して暮らせるまちづくり			
	施策の分類【章】	災害対策と安全対策			
施策の目的 (基本方針)	住民の防火意識の高揚につとめるとともに、迅速な消火・救助活動ができるよう消防体制の充実をはかります。また、救急救命士の養成や救急医療機関との連携など救急体制の充実と住民に対する応急手当の普及につとめます。				

## 2 施策を取り巻く環境

施策の現状	一人暮らし高齢者世帯をはじめ、グループホーム、老人等福祉施設など災害時避難困難者が増加しているほか、新たな物流倉庫などの高層建築物が建設されるなど、潜在的火災危険が高まっていることから、積極的に火災予防事業を展開しています。その対策としては、一人暮らし高齢者宅の防火訪問を実施するほか、施設、事業所等には立入検査を実施し、違反対象物に対して改善指導を行うなど火災予防の推進につとめています。また、住民への火災予防事業としては、各種広報媒体を有効に活用しての防火啓発を推進するほか、幼児、児童、従業員、高齢者など年齢層、施設に応じた防火講話や訓練指導を実施するなど防火意識の高揚につとめています。一方、複雑多様化する火災や救助事象への対応については、日々効果的な部内訓練を実施するほか、山岳、水難救助や大規模災害など広域応援が予想される災害事象については、積極的に近隣都市、他県との合同訓練に参加し連携強化につとめています。また、需要の高まりと高度な質が求められています救急対策については、救急救命士の養成を図るとともに各種研修等に派遣するほか、高規格救急車を計画的に更新するなど救急体制の整備につとめています。さらに、救命率の向上につなげるため、普通救命講習会を開催するほか、小学6年生児童や、福祉施設の職員等を対象とした救急指導等も行い応急手当の普及を推進するとともに、救急車の適正利用の啓発にもつとめています。なお、消防急無線デジタル化への整備については、計画的に事業が進められています。
法令・制度 の変更	
施策の課題	一人暮らし高齢者など避難困難者が増加し、また複雑多様化する火災、救助、救急など災害事象に対して、限られた人員と施設、資機材を有効に活用して、予防、災害対応を行う状況でありますので、優先度、有効性など事業内容を十分精査しながら、消防車両等の消防力や大規模災害時の体制整備を進めるとともに、火災時の消火活動をはじめ、大規模災害に組織力が期待され地域の消防防災の要であります消防団につきまちは、若年層の意識の変化などにより、団員確保が課題となっており、引き続きその対策を講じていく必要があります。また、火災予防を推進するため町民一人ひとり、地域ぐるみの防火意識を高まるような有効策を講ずるとともに、ますます増加する救急需要に対しても、高度な救急体制を確保しつつ、住民への応急手当の普及や救急車の適正利用の周知などをさらに推進していく必要があります。

## 3 施策の成果指標

(基本方針を達成するため本施策に求められる成果を定量的に表記します。)

住民満足度	指標 (単位)	総合計画 策定時	中間値 (26年度)	目標値 28年度	達成度
	『消防・救急体制の充実』について「満足」と感じる住民の割合	54.3 %	49.3 %	57.0 %	B

  

主な 目標指標	指標 (単位)	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
	火災予防査察件数	増	746	727	754	754	800	A
	救命講習会の修了者数	増	14,567	15,423	17,101	18,101	21,000	A
								—

## 4 施策の活動指標

(「3 施策の成果指標」の目的を達成するため本施策において町が行う活動内容等を定量的に表記します。)

主な 活動指標	指標 (単位)	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
	入場者数 (人)	増	450	210	0	403	0	—
	会員事業所 (事業所)	増	114	114	114	114	114	A
	消防団員数	増	217	216	211	218	210	A

### 5 総合計画の進捗状況調査に基づく基本施策の評価

基本施策		評価結果	基本施策		評価結果
No.	名称		No.	名称	
1	火災の未然防止	A	4	応急手当の普及・啓発	A
2	消防体制の充実	A			
3	救急体制の充実	A			

### 6 総合評価

成果指標評価	<b>B</b>	活動指標評価	<b>A</b>	進捗状況調査結果	<b>A</b>
--------	----------	--------	----------	----------	----------

総合評価	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>A</b> (自動判定)         </div> <span style="font-size: 2em; color: blue; margin: 0 10px;">➔</span> <b>良好と認められる施策です。</b>
	総合評価結果に対する分析（施策全体について、進捗状況、有効性・効率性の観点を踏まえて分析してください。）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災予防対策は、消防業務の根幹であるとの観点から、これまで、防火啓発事業を推進するとともに事業所については立入検査、防火指導に力を注いできた結果、火災件数も減少傾向にある。</li> <li>・火災等の災害対応については、住民の初期消火活動をはじめ、消防署、消防団の連携により、延焼防止が図れるなど被害の軽減につながっている。</li> <li>・救急需要は増加している中、重傷者に対して住民等による迅速的確な応急手当や救急隊員の救命処置、適切な医療機関への搬送により、毎年、社会復帰される事例があり、応急手当の普及や救急隊員の研修等の効果が表れている。</li> <li>・本町の消防力では対応困難な大規模災害や特殊災害などについては、積極的に近隣都市などとの研修、訓練に参加して、広域連携の強化や、職員の意識高揚、技術習得を図っている。</li> </ul>

### 7 今後の方向性

方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅な見直し <input type="checkbox"/> 新たな取組みや事業を追加 <input type="checkbox"/> その他
改善案などの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防体制・救急体制の充実に向けては、これまでの事業を確実に推進していくほか、ますます多種多様化する災害事象等を踏まえて、本町における潜在的危険を早期に排除するため、実態把握を行い迅速にその対応策を講じていく必要がある。</li> <li>・引き続き、研修や訓練を通して職員の質や組織力を高めるとともに、住民の協力も得ながら消防団の充実にも努めるとともに、他都市との広域的な連携強化も図りながら、本町に適した消防力の整備を推進していく必要がある。</li> <li>・消防団の福利厚生事業の一環として隔年で開催していた家族慰安会については平成25年度をもって廃止したが、団員確保に繋げる支援として福利厚生事業の充実にも努める。</li> </ul>

### 8 庁内行政評価委員会コメント

※主管部等では記入しないでください。

評価・方向性	所管部の方向性のとおり
--------	-------------

